留学特集

九大から世界へ

特別学生座談会

九州大学では、国際的な視野を持ち海外で通用し得る人材を育成するため、学生の海外留学を推奨しており、九大生には、短期・長期を含め、各国への留学の機会が数多く用意されています。
今回、九大生５人が留学について自由に語り合う座談会を開きました。これから留学等を前向きに考えている学生の疑問に対して、参加した学生が答える形となったこの座談会。学生の視点から留学について語り合った座談会となりました。（この座談会は8月24日、箱崎キャンパスにて行われました。）

参加者（左から）

今村 彩乃（いまむら　あやの）
文学部４年
中国語修得のため、CLP-Cに参加の後、さらに勉強をしたいという思いから、中国・清華大学に半年間交換留学

鳥井 淳平（とりい　じゅんぺい）
生物資源環境科学府 修士課程１年
学部３年時に参加したAsTWに刺激を受け、SVEPに参加。そして再度AsTWに参加。

栄留 卓哉（えいどめ　たくや）
法学部３年
現JTWチューター副リーダー。チューター経験で留学生と仲良くなるに連れて、海外への興味が強まり、現在海外留学を思案中。英語の勉強会にも積極的に参加。

古賀 嵩（こが　たかし）
経済学部４年
モントレーサマー（現：SVEP）参加の後、タイ・タマサート大学へ交換留学。チューターも経験。箱崎キャンパスにて、昼休みに留学経験を語る場となる「ランチアワー」を前期に企画。本インタビュー直後に、中国・北京大学へ交換留学のため出発。

菅沼 格（すがぬま　いたる）
経済学部２年
学部１年時にSVEPに参加。チューターも経験し、ランチアワー企画に携わっていたが、9月、フィリピン・アテネオデマニラ大学交換留学のため出発。

最初は「ちょっと行ってみよう」短期プログラムから…

栄留　みなさん、どうやって海外に出るようになったんですか？

古賀　元々は、特に留学をしようという強い意志があったというわけではありませんでした。大学２年の時、大学の授業にも慣れ、時間の余裕もできたことで、この時間を使って他の人と違うことをしてみたいと思った矢先、モントレープログラム（現：SVEP）について知りました。単純に「海外ってどんな感じだろう」という思いから参加したんですが、海外に実際に行って見聞きすることや、海外の方と仲良くなることに楽しさを感じました。以後、タイの交換留学も含め、自分の興味のあるいろんな国に出かけるようになりました。

菅沼　入学式で配られた冊子の中で、SVEPの案内を見つけました。アメリカでの語学プログラムなのに参加条件のところに「英語力不問」と書いてあったので「これならチャレンジできる!!」と思い、入学してすぐの夏休みに参加しました。

　帰国後、英語圏の国に留学してもっと勉強したいと思い、何とか勉強して、スコアも到達したので、交換留学に応募しました。

鳥井　大学のプログラムで行けば、費用も安く、勉強にもなる海外旅行という軽い気持ちでAsTWに参加しました。ASEAN中から学生が集まったんですが、海外の学生のモチベーションの高さ、自分の英語力の未熟さに衝撃を受けました。何だかじっとしていられなくなって、帰国後すぐに英語力強化のためにSVEPに参加し、その２年後、自分がどこまで成長できたか計るため、再度AsTWに参加しました。

今村　中国語の勉強のため、CLP-Cに参加しました。最初はなかなか言葉が通じない状態だったんですが、３週間の現地での勉強を通して、何とか生活できるようになりました。帰国後、もっと中国で勉強したいという思いが強くなって、交換留学に踏み切りました。

CLP-Cくらいの短期プログラムであれば、気軽に参加してみようという気持ちにもなれましたし、その後、それがきっかけとなって交換留学に踏み出すことができました。

SVEP（Silicon Valley English Study Program）

カリフォルニア サンノゼ州立大学での4週間の英語集中コースです。九州大学カリフォルニアオフィス及び、米国同窓会の協力により、実施しています。語学の授業以外にも、サンノゼ周辺の企業や大学、研究所等を訪問するフィールドトリップも組み込まれています。
参加には英語力不問!
期間：8月下旬～9月中旬
http://www.isc.kyushu-u.ac.jp/california/program.html

CLP-C（The 21st Century Challenges in Living Abroad Program, Chinese）
CLP-K（The 21st Century Challenges in Living Abroad Program, Korean）

中国語・韓国語の現地語学研修。語学教育に特に定評のある現地の有名大学で、参加者のレベルに会ったクラスで3週間の集中トレーニングを受けるプログラムです。8月～9月と、3月に開催しています。
交換留学を目指して語学能力向上を図る学生を対象として、授業料と宿泊費用は九大が負担します。
募集時期：夏期　4～5月　　春期　10～11月
http://www.isc.kyushu-u.ac.jp/intlweb/study/short/short-term.htm

友達も視野も広がった 海外経験

栄留　確かに皆さん最初は短期のプログラムに参加されていますね。現地での思い出話などがあれば聞かせてください。

今村　向こうの大学で、留学生向けのクラスにいたことで、現地中国の学生だけではなく、韓国をはじめ、いろんな国の学生と仲良くなれました。もちろんそこで、それぞれ生まれ育った言葉や習慣の違いのために、コミュニケーションで苦労したこともあります。日本と比べて、明確な意思表示や積極的な行動を求められる場面が多かったです。

そういう環境にいたことで、自分が住んでいた日本を客観的に見るいい機会になりました。もともと興味のあった中国はもちろんのこと、今まで気付かなかった日本の良さも改めて感じることができました。

言語や専門を学ぶ以外にも得るものがたくさんありました。

鳥井　海外の方とのルームシェアは印象的でした。彼らが日本について日本人以上に知っていることも多くあり、盛んに意見を求められ、初めのうちはうまく説明できないことに不甲斐なさを感じたりもしていました。しかしながら意見交換を進めていくうちにそれらの問題に対して人の意見も吸収しつつ自分なりの考え方が出来ていくのが実感でき、これが「視野が広がる」と言われるものなのかと思ったりもしました。

また、AsTWはASEAN中から学生が集まるプログラムです。今はもう、東南アジアで友達がいない国はほとんどありません。留学中は、現地の学生やホストファミリーにサポートしていただいたことで、この恩を、日本でほかの留学生に還元したいという思いからチューターを始めることにしました。

栄留　私も九大でチューターとして留学生をサポートしています。たくさんの素敵な出会いに恵まれた上、語学の勉強にもなりました。

ところで、チューターとして留学生と仲良くなることと、留学先で友達をつくることの違いは何だと思いますか？

古賀　チューターでサポートする留学生は多くが日本の言語・文化・習慣等を学びにきた学生ですので、歩み寄りに苦労する事は少なかったと感じています。しかし、外国の現場では、私の無意識の習慣等がとても不自然で理解しがたいと思われることも多々あり、苦労することもありました。そういう経験を通じて、異文化を理解する上で、まず自分が何を「当たり前」だと考えているのか意識するようになりました。これは現地でしばらく暮らさないとなかなか経験しにくいことだと思います。ここでお互いが理解して仲良くなると、本当に強い友情で結ばれた友達同士になりますね。

栄留　海外でのチャレンジや経験にとても魅力を感じていますが、いざ留学に踏み切るにあたって、手続きや準備等の面、金銭面や就職活動、九大に半年通えなくなることでのカリキュラム上での不安があるんですが、みなさんの経験を聞かせてください。

古賀　国際部からの案内に従って書類提出等をしていれば自然と手続き準備が整ってしまっていました。安心して大学に任せて大丈夫です。また、カリキュラムの件ですが学部によっても対策が変わってくるので、まず同じ学部の先輩に相談してからご両親に金銭面等の事を相談してみてはいかがでしょうか。

AsTW（ASEAN in Today's World）

九大生とASEANを中心とする海外の大学生を対象とした、アジア学を学ぶ短期留学プログラムです。今年度からは、アテネオ・デ・マニラ大学で開催します。授業は全て英語で行われ、参加者同士、英語で議論します。フィリピンの名所観光やフィリピン文化体験もでき、全学教育科目の単位取得が可能です。

期間：2月～3月

http://www.isc.kyushu-u.ac.jp/astw-j/

チューター制度

来日して間もない留学生に、諸手続きの手伝いやキャンパス、市内の案内などのサポートを九大生が行う制度です。チューターを経験することにより、留学体験を逆の立場から眺め、留学生の友達もできます。また、チューターは留学生にとって最も身近で頼りになる存在であることから、強い友情が育まれることも多くあります。

http://www.isc.kyushu-u.ac.jp/intlweb/study/homestay-tutor-partner/tutor-partner/outline-jlcc.htm

菅沼　まさに最近、これから通う大学について、手続きのことで疑問に思ったんですが、説明されている書類も無い、ネットでも探したんですが見つけきれない…思い切って、緊張しながらも大学に直接電話で問い合わせたら、意外とあっさり解決したことがありました。自分が構えすぎず、気楽な気持ちでいても意外と大丈夫だと思います。

また、自分の「行きたい」という強い気持ちがあれば、周りの人は分かってくれて、応援してくれます。

今村　金銭面については、留学前私もとても心配していましたが、九大の交換留学では、通常の授業料を九大に納めていれば留学先には支払わなくてよいので、実際必要だったのは現地での生活費くらいでした。でも、生活費は日本で暮らしていてもかかるものなので、留学にあたっての特別な支出というのは、ほとんどないと思います。また、九大の交換留学は奨学金制度がかなり充実しており、私は渡航費や毎月の生活費も補助していただきました。無事に奨学金がもらえたことで、十分に勉強に集中でき、かつ現地の文化に触れて楽しむ時間も確保できました。

古賀　これからは海外の方と一緒に働かないといけない場面が確実に増えると思いますが、留学を通して、海外から日本を見る視点を持つことや、海外の方と共同して何かをやっていく疑似体験が学生時代のうちにできました。自分の就職活動について、留学中の目的を意識した勉学・課外活動は確実にアドバンテージになったと思います。

栄留　何もせずに心配するよりも、興味があることにチャレンジして、自らを磨くことも大事だと強く感じるようになりました。

それでは今後、自分を含め、留学を考えている方へのアドバイスなどありますか？

鳥井　海外に出ること、英語を喋ることに臆することはありません。英語がどんなに下手でもそこに伝えたいという意思があれば、海外の人たちは話し終わるまでちゃんと待ってくれます。留学すべきかしまいか悩んでいるなら考えるのは後にして、とりあえず思い切って一歩踏み出してほしいです。

古賀　「はじめの一歩で世界が広がる」ということを強く言いたいです。何となく海外へ足を踏み入れたことがきっかけとなって、楽しかったことも大変だったことも沢山経験できました。また、実際に行って、触れてみないとわからないことばかりでした。素晴らしい出逢いもたくさんありました。今後ともいろんな国の人と交流して私が見聞きする世界を広げていきたいですね。

だからといって、ずっと海外に出続けるべきだ…というわけではありません。海外経験をすると、海外も自国も見つめなおして、両方の良さを感じるようになりますし、海外経験をした上で、「やっぱり自分は日本で頑張ろう」とか、「地元のために頑張ろう」という考えることも素晴らしい選択だと思います。国内外に関わらず、重要なのは「挑戦と発見」だと思います。

人生における選択肢を増やす体験として留学に挑戦することを自信を持ってお勧めします。どうしようか迷っている方は、まずは短期プログラムに参加してみてはいかがでしょうか？

留学では、単に語学や専門分野以外にも得るものがたくさんあります。自分の利害に関係の無い友達をつくることができる学生時代に、世界各国で友達をつくることができるチャンスがあります。次頁では、様々な九大の留学制度について、紹介します。

様々な海外留学プログラム

交換留学

九州大学が海外の大学と締結した学生交流の覚書に基づき、1年以内の期間で締結先大学に留学する制度です。

九大からの交換留学の特色

■留学先の選択肢多数
どの学部・大学院からでも交換留学に応募できる協定を結んでいる大学は、世界25カ国114機関。（アメリカ13校、イギリス6校、中国21校など）

■経済的負担が少ない
留学期間中は、九大の在学扱いとなるため、通常の授業料を九大に納めていれば、留学先の大学への支払いは不要です。また、近年奨学金制度や渡航費補助制度が充実しているため、ほとんどの交換留学生が支援を受けて留学しています。

■手続きは九大がサポート
留学先との連絡や、必要書類の準備等、留学生課が手続きをバックアップします。留学の相談にも対応します。

■留年せずに卒業可能
留学中は在学期間扱いになる上、留学先で取得した単位を九大の単位として取り扱うことも可能です（教授会の承認が必要）。これまでも半数以上の交換留学生が留年せずに卒業しています。

■留学先での優遇多数
学生寮の優先的確保など、優遇してもらえる場合が多い。

交換留学するためには・・・

交換留学するためには、書類と面接による学内選考を受ける必要があります。

募集は毎年7～8月、12月、3～4月の3回です。学内選考では、「留学目的／留学成果が期待できるか／人物／語学力／学業成績」などから総合的に審査されます。（英語圏の大学への留学を希望する場合、TOEFLスコアが必要です。）

詳しい情報収集は…

国際部Webサイト「九大生向け留学情報」ページ
http://www.isc.kyushu-u.ac.jp/intlweb/study/index.htm

または、国際部発行の冊子「九大から世界へ翔びたい!!～留学のすすめ～」をご覧ください。

※「学生ポータルシステム」から、留学に関する各種情報を配信している『海外留学メールマガジン』の購読登録ができます。

短期プログラム

SVEP、AsTW、CLPなどのように、夏や春の長期の休みを利用して、海外で語学や海外文化を学べる3週間程度の短期プログラムも数多くあります。

「タイ語・タイ文化」集中講義／短期留学

タイのマヒドン大学との学生交流の一環として、相互に自国の言語・文化を紹介する集中講義や短期留学を実施しています。8月にタイ語やタイ文化に関する集中講義を受け、9月にマヒドン大学で学びます。

期間：（集中講義）8月
（短期留学）8月下旬～9月
http://www.isc.kyushu-u.ac.jp/intlweb/study/mahidol/short.htm

海外大学等のサマースクール

九大の協定校が実施するサマースクールには、参加費等が免除されるものもあります。参加には、学生係や留学生課へ書類提出するものと、所定の機関へ直接申し込むものがあります。詳細はWebで確認してください。
http://www.isc.kyushu-u.ac.jp/intlweb/study/summer/summer.htm

ケンブリッジ大学英語・学術研修

言語文化研究院鈴木右文准教授が企画運営している語学研修です。12月から翌年8月の事前研修を受けた後、8月中旬より出国して、ケンブリッジ大学で英語と専門学術科目を受講します。
http://www.flc.kyushu-u.ac.jp/~yubun/cambridge.html

学位取得を目指して ～長期留学～

留学生交流支援制度（長期派遣）

「留学生交流支援制度（長期派遣）」とは、修士または博士の学位取得を目指して、海外の大学に1年以上留学する学生等を対象に、日本学生支援機構（JASSO）が授業料、奨学金を援助する制度で、アメリカ、イギリス、オランダ、ウズベキスタン等、地域を問わず九大生が海外へ渡っています。長期派遣制度についての詳細は日本学生支援機構Webサイトで
※申請は所属学部の学生係で行います（卒業生も、応募可能）。
http://www.jasso.go.jp/scholarship/long_term_h.html

米国大学院学生会

アメリカの大学院に学ぶ日本人留学生有志が、後に続く日本の後輩たちを応援するために組織した団体で、情報発信や、各大学での留学説明会を実施しています。本学でも8月1日に開催され、4人の現役留学生がアメリカの大学での経験を語りました。
米国大学院学生会Webサイト
http://gakuiryugaku.net/

派遣学生から

井之村啓介　生物資源環境科学府修了

2011年9月より、マサチューセッツ工科大学（MIT）へ学位留学しました。将来は、アメリカで得た経験・知識・ネットワークを生かし、日本とアメリカの橋渡しとなり、世界でもトップレベルの研究者を目指します。

小学生の時から海外に行ったり、学部時代には交換留学プログラムに参加したりしていました。設備においても、周りの人においてもレベルが高く、かつ厳しい環境で、自分のポテンシャルを最大限に発揮するためにアメリカでの学位留学を決め